

凡例

- 一、この訳注本は、『歴代寶案』校訂本第十五冊 卷一（一三・別集佛嘆情狀・佛嘆唾三國情狀、咨集文組方、冠船之時唐人持來候貨物録、二集歴代寶案目錄（乾坤）（沖繩県教育庁文化財課史料編集班編、沖繩県教育委員会刊、二〇一六年）を底本とする。
- 一、訳注に当たっては原典の文章に忠実であることをむねとする。参照すべき文献がある場合も、明白に誤字・脱字等と認められる場合にのみ校訂を施し、『歴代寶案』のオリジナルテキストとしての性格を最大限に重んじた。
- 一、訳文は次の通りとする。
 - 1、各文書に簡単な見出しを付す。
 - 2、いわゆる読み下し文とする。
 - 3、現代仮名遣いを用いる。
 - 4、原文の漢字はなるべく残す。
 - 5、難読の漢字にふりがなを付す。
 - 6、異字・俗字・略字などは、原則として正字（常用漢字を含む）、あるいは通用の字体に改める。数字は簡略な表記とする（例 壹↓一、貳↓二）。同義の字は通用の字体に統一した場合がある。
 - 7、避諱や清朝の政策による文字の置き換えは、原文のままとする。
 - 8、送りがなについては、一般的用法と異なる場合がある。
 - 9、平出・抬頭はとらない。
 - 10、文字の大小については底本通りとする。
 - 11、不明個所は、字数の判明するものについてはその字数分を□で示した。
 - 12、個人の書きくせなどによる明白な誤字・誤用には特に校訂や注記をしない。
 - 13、人名の名を欠き空欄を伴うもので、判明するものについては（ ）を付して補う。

14、年号には《》を付して西暦を補う。ただし月日は原文のままとし、太陽暦に置きかえない。したがって十二月末などで、西暦が実際と異なる場合がある。

15、文書の宛先・年月日記載の位置は必ずしも同一ではないが、便宜的に統一して記す。

16、適宜改行した。

17、読者の便のため、適宜（ ）を付して補語を加え、引用を示す「」のカッコを用いた。

一、注釈は次の通りとする。

1、文書ごとに、文書に続けて付す。

2、注は原則として再記しない。

3、『歴代宝案』文書番号については、第一集〜第三集は「三〇一〇一」のように、集・巻・文書番号を示し、別集、咨集は「別台一〇一」のように示した。

4、琉球国王・中国皇帝（清代）は、在位年代、系譜などを一括して表記する。

5、索引は各冊ごとにつける。

6、訳注全般に参照した辞書・文献は別表の通りである。これらについては個別に出典を記載しない。ただし必要な場合には、内に示した略称によって注記する。なお、個々に参照した文献・研究書・論文等については、当該の個所に記すにとどめる。

一、本冊の訳注は西里喜行が担当し、漢那敬子・本村育恵が協力した。なお、本冊の訳注には歴代宝案研究会（於琉球大学）の成果が反映されている。訳注者・協力者以外に、研究会の例会に参加したメンバーは次の通りである。赤嶺守・麻生清香・麻生伸一・小祿隆司・大城洋介・幸喜新・東崎香代・徐斌・陳碩炫・富田千夏・中村春菜・野原磨紀子・野村直美・比嘉吉志・前田舟子・山田浩世。

参考文献

() は本冊での略称

- 星斌夫編『中国社会経済史語彙（正篇）』光文堂書店 一九六六年
星斌夫編『中国社会経済史語彙（続篇）』光文堂書店 一九七五年
星斌夫・鈴井正孝・中道邦彦編『中国社会経済史語彙（三篇）』光文堂書店 一九八八年
- 徐望之著『公牘通論』中文出版社 一九七九年
山腰敏寛編『中国歴史公文書読解辞典』汲古書院 二〇〇四年
『歴代宝案』を読むための用語解説（『歴代宝案』訳注本第二冊所収）
沖繩県教育委員会 一九九七年（用語解説）
前間恭作遺稿・末松保和編纂『訓読吏文 附吏文輯覧』一九四二年
国書刊行会影印本 一九七五年
- 『六部成語注解』大安影印本 一九四〇年 浙江古籍出版社標点本
一九八七年
- 李鵬年等編著『清代六部成語詞典』天津人民出版社 一九九〇年
『アジア歴史事典』平凡社 一九五九—六二年
京大東洋史辞典編纂委員会編『新編 東洋史辞典』東京創元社 一九八〇年
阮元校勘『十三經注疏』芸文印書館 一九六五年
上海古籍出版社、上海書店編『二十五史』上海古籍出版社、上海書店
一九八六年
- 『沖繩大百科事典』沖繩タイムズ社 一九八三年（『大百科』）
周汎・高春明編著『中国衣冠服飾大辞典』上海 辞書出版社 一九九六年
王伯敏著・遠藤光一訳『中国絵画史事典』雄山閣出版社 一九九六年
織物染色辞典刊行会編『織物染色辞典』専門図書（株） 一九五一年
中江克己編『染織事典』泰流社 一九八一年
吉岡幸雄著『日本の色辞典』紫紅社 二〇〇一年
小笠原小枝著『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂 一九九八年
- 渡部温訂正『標註訂正 康熙字典』講談社 一九七七年
石山福治編『最新支那語大辞典』第一書房 一九三五年
田中慶太郎編訳『支那文を読むための漢字典』研文出版 一九四〇年
諸橋轅次著『大漢和辞典』大修館書店 一九八四年修訂版
中文大辞典編纂委員会編『中文大辞典』台北 中国文化大学出版社
一九七三年
- 漢語大辞典編輯委員会漢語大辞典編纂処編『漢語大辞典』漢語大辞典
出版社 一九八五年—九四年
愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典』大修館書店 一九八六年
増訂版
- 石山福治編『中国語大辞典』国書刊行会 一九七四年
尾崎雄二郎他編『角川大辞源』角川書店 一九九二年
白川静著『字通』平凡社 一九九六年
佐伯富編『福恵全書語彙解』同朋舎出版部 一九七五年
劉文傑著『歴史文書用語辞典—明・清・民国部分』四川人民出版社
一九八八年
- 雷榮廠・姚榮野著『清代文書綱要』四川大学出版社 一九九〇年
倪道善編著『明清檔案概論』四川大学出版社 一九九二年
張我徳・楊若荷・裴燕生編著『清代文書』中国人民大学出版社
一九九六年
- 植田捷雄他編『中国外交文書辞典（清末篇）』一九五四年 国書刊行会影
印本 一九八五年

譚其驤主編『中國歷史地圖集 第八冊 清時期』上海 地圖出版社

一九八七年

臧勵蘇等編『中國古今地名大辭典』商務印書館 一九三二年

魏嵩山編『中國歷史地名大辭典』廣東教育出版社 一九九五年

趙泉澄『清代地理沿革表』文海出版社(台灣) 影印 一九七九年

『福建省地圖冊』福建省地圖出版社 一九九〇年

『中華人民共和國 地名詞典』(台灣省)商務印書館 一九九〇年

『中華人民共和國 地名詞典』(福建省)商務印書館 一九九五年

陳正祥著『台灣地名大辭典』南天書局 一九九三年

浙江省測繪局編制『浙江省地圖冊』中華地圖出版社 一九九八年

錢寅甫編『清代職官年表』北京 中華書局 一九八〇年

章伯鋒編『清代各地將軍都統大臣等年表』北京 中華書局 一九六五年

『中國第一歷史檔案館藏 清代官員履歷檔案全編』華東師範大學出版社

一九九七年

故宮博物院明清檔案部·福建師範大學歷史系合編『清季中外使領年表』

北京 中華書局 一九八五年

臨時台灣慣例調查會編『清國行政法』全六卷 一九〇五—一五年 大安

影印本 一九六五—六六年

張德沢編著『清代國家機關考略』北京 中國人民大學出版社

一九八一年

李鵬年等編著『清代中央國家機關概述』北京 紫禁城出版社

一九八九年

俞鹿年編著『中國官制大辭典』黑龍江人民出版社 一九九二年

劉子揚編著『清代地方官制考』北京 紫禁城出版社 一九八八年

『那霸市史 資料篇第一卷四 歷代宝案第一集抄』那霸市企画部文化振興

課 一九八六年

『那霸市史 資料篇第一卷五 家譜資料(一)』那霸市企画部市史編集室

一九七六年(『家譜(一)』)

『那霸市史 資料篇第一卷六 家譜資料(二)』那霸市企画部市史編集室

一九八〇年(『家譜(二)』)

『那霸市史 資料篇第一卷七 家譜資料(三)』那霸市企画部市史編集室

一九八二年(『家譜(三)』)

『那霸市史 資料篇第一卷八 家譜資料(四)』那霸市企画部市史編集室

一九八三年(『家譜(四)』)

陳氏華源會歷史調查委員會編『久米陳氏家譜集(總集編)』陳氏華源會

二〇〇八年

『琉球国旧記』『琉球史料叢書三』井上書房 一九六二年

『中山世譜』『琉球史料叢書四』井上書房 一九六二年(『世譜』)

『中山世鑑』『琉球史料叢書五』井上書房 一九六二年(『世鑑』)

『蔡鐸本中山世譜』沖繩県教育委員会 一九七三年

球陽研究会編『球陽·原文編』角川書店 一九七四年

夫馬進編『增訂 使琉球録解題及研究』榕樹書林 一九九九年

徐葆光著·原田禹雄訳注『中山伝信録』榕樹書林 一九九九年

周煌著·原田禹雄訳注『琉球国志略』榕樹書林 二〇〇三年

李鼎元著·原田禹雄訳注『使琉球記』榕樹書林 二〇〇七年

趙新著·原田禹雄訳注『統琉球国志略』榕樹書林 二〇〇九年

中國第一歷史檔案館編『清代中琉關係檔案選編』一九九三年(『選編』)

中國第一歷史檔案館編『清代中琉關係檔案統編』一九九四年(『統編』)

中國第一歷史檔案館編『清代中琉關係檔案三編』一九九六年(『三編』)

中國第一歷史檔案館編『清代中琉關係檔案四編』一九九九年(『四編』)

- 中国第一歴史檔案館編『清代中琉關係檔案五編』二〇〇二年（『五編』）
 中国第一歴史檔案館編『清代中琉關係檔案六編』二〇〇五年（『六編』）
 中国第一歴史檔案館編『清代中琉關係檔案七編』二〇〇九年（『七編』）
 中国第一歴史檔案館編『清代琉球国王表奏文書選録』一九九七年
 （『表奏文書』）
 中国第一歴史檔案館編『乾隆朝上諭檔』一九九一年
 中央研究院歴史語言研究所編刊『明清史料』（甲—癸編）一九三〇—
 七五年 台北 維新書局影印本 一九七二年
 張偉仁編『明清檔案』中央研究院歴史語言研究所 一九八六年
 『大清歷朝実録』滿洲国國務院影印本 一九三七年 台北 華文書局
 一九六四年、北京 中華書局影印本 一九八六—八七年
 『清実録』北京 中華書局影印本 一九八五—八七年
 趙爾巽撰『清史稿』北京 中華書局標点本 一九七七年
 『清史列伝』北京 中華書局点校本 一九八七年
 国史館編『清史稿校註』台北 国史館刊 一九八六—九一年
 『清会典』『清会典事例』『清会典图』光緒二十五年 北京 中華書局
 影印本 一九九一年
 陳壽祺等撰『福建通志』同治十年（中国省志彙編之九）台北 華文書
 局 一九六八年
 沈翼機等撰『浙江通志』乾隆元年重修本（中国省志彙編之二）台北 華
 文書局 一九六七年
 和田清編『明史食貨志譯注 補訂版』東洋文庫論叢第四〇 汲古書院
 一九九六年
 宋応星選・藪内清訳注『天工開物』（東洋文庫一三〇）平凡社 一九七四
 年

- 『琉球歴史關係国際学術会議論文集』第一—十五回 一九八六—二〇一六
 年
 『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』第一—十二回 沖縄県
 教育委員会 一九九三—二〇二〇年
 『歴代宝案研究紀要』第一—十号 沖縄県教育委員会 一九九〇—一九九
 年
 台湾国立故宫博物院所蔵『大清国史人物列伝及史館檔伝包伝稿』
 琉中關係研究会編『中国福建省における琉球關係史跡調査報告書 平成
 二〇〇年度琉球大学特別教育研究経費』人の移動と二一世紀のグローバ
 ル社会』中国・台湾調査班・福建師範大学中琉關係研究所合同調査報
 告書』琉中關係研究会 二〇〇九年
 琉中關係研究会編『中国北京における琉球關係史跡調査報告書 平成
 二一年度琉球大学特別教育研究経費』人の移動と二一世紀のグローバ
 ル社会』中国・台湾調査班調査報告書』琉中關係研究会 二〇一〇年
 赤嶺守・朱徳蘭・謝必震編『中国と琉球 人の移動を探る—明清時代を
 中心としたデータの構築と研究』琉球大学 人の移動と二一世紀のグ
 ローバル社会』彩流社 二〇一三年
 沖縄県立博物館・美術館編『沖縄県立博物館・美術館開館一周年記念
 博物館特別展 中国・北京故宫博物院蔵 甦る琉球王国の輝き』
 二〇〇八年
 高良倉吉・赤嶺守・豊見山和行編『国立台湾大学図書館典蔵 琉球關係
 史料集成 第一卷』国立台湾大学図書館 二〇一三年
 西里喜行・赤嶺守・豊見山和行編『国立台湾大学図書館典蔵 琉球關係
 史料集成 第二卷』国立台湾大学図書館 二〇一四年
 西里喜行・赤嶺守・豊見山和行編『国立台湾大学図書館典蔵 琉球關係
 史料集成 第三卷』国立台湾大学図書館 二〇一六年

西里喜行・赤嶺守・豊見山和行編『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係

史料集成 第四卷』国立台湾大学図書館 二〇一七年

西里喜行・赤嶺守・豊見山和行編『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係

史料集成 第五卷』国立台湾大学図書館 二〇一八年

陳龍貴(主編)『清代琉球史料彙編 宮中檔硃批奏摺(上下)』国立故宮博

物院、二〇一五年

陳龍貴(主編)『清代琉球史料彙編 軍機處檔案奏摺錄副(上下)』国立故

宮博物院、二〇一六年

陳龍貴(主編)『清代琉球史料彙編 其他檔冊(一)(上下)』国立故宮博

物院、二〇一九年

高田真次訳『漢詩大系 第一卷・第二卷 詩経 上・下』集英社、

一九六六・六八年 (『詩経』高田訳)

赤塚忠訳『書経』中国古典文学大系1 書経・易经(抄)』平凡社、

一九七二年 (『書経』赤塚訳)

竹内照夫訳『中国古典文学大系2 春秋左氏伝』平凡社、一九六八年

(『春秋左氏伝』竹内訳)

木村英一・鈴木喜一訳『論語』中国古典文学大系3 論語・孟子・荀子・

礼記(抄)』平凡社、一九七〇年 (『論語』木村・鈴木訳)

藤堂明保・福島中郎訳『孟子』中国古典文学大系3 論語・孟子・荀子・

礼記(抄)』平凡社、一九七〇年 (『孟子』藤堂・福島訳)

竹岡八雄・日原利国訳『荀子』中国古典文学大系3 論語・孟子・荀子・

礼記(抄)』平凡社、一九七〇年 (『荀子』竹岡・日原訳)

竹内照夫訳『礼記(抄)』中国古典文学大系3 論語・孟子・荀子・礼記(抄)』

平凡社、一九七〇年 (『礼記』竹内訳)

金谷治訳『老子』中国古典文学大系4 老子・莊子・列子・孫子・呉子』

平凡社、一九七三年 (『老子』金谷訳)

柿村峻訳『韓非子』中国古典文学大系5 韓非子・墨子』平凡社、

一九六八年

戸川芳郎・木山英雄・沢谷昭次訳『淮南子』中国古典文学大系6 淮南子・

說苑(抄)』平凡社、一九七四年 (『淮南子』沢谷訳)

本田濟『新訂 中国古典選 第1卷 易』朝日新聞社、一九六六年 (『易

経』本田訳)

島田虔次『新訂 中国古典選 第4卷 大学・中庸』朝日新聞社、

一九六七年 (『大学』『中庸』島田訳)

福永光司『新訂 中国古典選 第6卷 老子』朝日新聞社、一九六八年

(『老子』福永訳)

福永光司『新訂 中国古典選 第7卷 莊子 内篇』朝日新聞社、

一九六六年

福永光司『新訂 中国古典選 第8卷 莊子 外篇』朝日新聞社、

一九六六年

福永光司『新訂 中国古典選 第9卷 莊子 外篇・雜篇』朝日新聞社、

一九六七年 (『莊子』福永訳)

内田泉之助『新装版 漢詩大系 第四卷 古詩源(上)』集英社、

一九六四年 (『古詩源』内田訳)

宮崎市定『現代語訳 論語』(岩波現代文庫)岩波書店、二〇〇〇年 (『論

語』宮崎訳)

別集「沸嘆情状」（別台）と「沸嘆唾三国情状」（別録）記載の（異国）人名一覧

宝案での表記	人名	国籍	宝案での役職等の表記	役職	備考
嘯爾烈噉璞朗	ベニーニュ・ユージン・フォルニエ・デュプラン Benigne Eugene Fornier-Duplan	仏	総兵	海軍大尉	道光24年3月11日(1844/4/28)アルクメーン号(<i>Alcmene</i>)にて那覇港来航。同年3月19日(5/6)にフォルカードとオーガスティンを琉球に残し出帆。
嘯爾伽助	テオドール・オーギュスタン・フォルカード Theodore Augustin Forcade	仏	執事	宣教師	道光24年3月11日(1844/4/28)アルクメーン号にて来航。2年滞在。道光26年閏5月24日(1846/7/17)セシーユが率いるクレオパートル号にて出航。
粵五思旦	オーギュスタン・高 Augustin Ko	清	通事	通訳	道光24年3月11日(1844/4/28)アルクメーン号にて来航。2年滞在。道光26年閏5月24日(1846/7/17)クレオパートル号にて出航。
喇嚕呢	テオドール・ド・ラグルネ Theodore de Lagrene	仏	仏国使臣	条約交渉使節団長	道光24年(1844/10/24)、欽差大臣両広総督耆英と清仏黃埔条約を交渉・締結。
李太郭	ジョージ・トレード スキャント・レイ George Tradescant Lay	英	大英国領事		道光23年7月(1843/7)英国駐広州領事、道光24年5月(1844/7)英国駐福州領事、道光25年2月(1845/4)英国駐廈門領事
味叻啫	エドワード・ベルチャー / Edward Belcher	英	急頓	海軍大尉	道光25年5月15日(1845)那覇の海上にサマラン号にて来航(1843、1844にかけて宮古・八重山・与那国に来航)。
伯德令 / 嘯噉咿	ベルナード・ジャン・ベッテルハイム Bernard Jean Bettelheim	英	医士	宣教師・医者	道光26年4月5日(1846/4/30)米国商船スターリング号にて琉球に来航。約8年滞在。咸豊4年6月23日(1854/7/17)ペリー艦隊の艦船に便乗して琉球を去る。
劉友于		清	通事	通訳	ベッテルハイムの通事。広東省香山県出身。道光26年4月5日(1846/4/30)米国商船スターリング号(<i>Starling</i>)にて琉球に来航。道光29年(1849/3/8)マリナー号にて琉球を去る。
摂藍	ニコラ・フランソワ・ゲラン Nicolas Francois Guerin	仏	総兵	船長	道光26年4月7日(1846/5/2)サビーヌ号(<i>Sabine</i>)にて泊港に来航。(→運天港)。同年閏5月24日(7/17)出航。
瑟西爾 / 嘯晒呬	ジャン・バティスト・セシーユ Jean Baptiste Cecille	仏	元帥 / 兵頭	提督	道光26年5月13日(1846/6/6)クレオパートル号(<i>Cleopatre</i>)にて来航。(那覇→運天港)。同年閏5月24日(7/17)フォルカードとオーギュスタンを乗せて出航。
黎峩	シャルル・リゴード・ジュヌイイ Charles Rigault de Genouilly	仏	総兵		道光26年5月13日(1846/6/6)ヴィクトリューズ号(<i>Victorieuse</i>)にて来航、運天港に停泊。同年閏5月24日(7/17)出航。
類斐理甫	ルイ・フィリップ Louis Philippe	仏		国王	フランス国王。在位(1830-1848)。

伯多禄 / 咱哆囉	ピエール・ルチュル ジュ Pierre Leturdu	仏		宣教師	道光 26 年 4 月 7 日 (1846/5/2) サビーヌ号にて来航。約 2 年滞在。 道光 28 年 7 月 29 日 (1848/8/ 27) バヨネーズ号にて出航。
色爾玩	アリスティード・セ ルヴァン Aristide Servan	仏			道光 26 年閏 5 月 14 日 (1846/7/7) 商船パシフィック号にて来航。豊見 城間切大嶺村沖で座礁。同年 6 月 2 日 (7/24) 出航。
亜泉徳	マチュー・アドネ Mathieu Adnet	仏		宣教師	道光 26 年 7 月 26 日 (1846/9/16) ヴィクトリユーズ号にて来航。約 2 年滞在。道光 28 年 6 月 1 日 (1848/7/1) 琉球で病死。
李清紅		清		通訳	イギリス船通事。広東省出身。
郭季倫	トマス・アレクサン ダー・コクレーン Thomas Alexander Cochrane	英	水師提督 / 英官	提督	道光 26 年 8 月 28 日 (1846/10/17) ドダラス号 (<i>Daedalus</i>) にて来航。 ベスタル号 (<i>Vestal</i>)、リングドーブ 号 (<i>Ringdove</i>) の二隻を率いる。3 日後出航。
叻嘯	サミュエル・ジョー ジ・ボナム Sir Samuel George Bonham	英		駐清英国公使 香港総督	香港に駐在している英国公使。
克拉克	クラーク /Clark	英		船長	道光 29 年 1 月 17 日 (1849/2/9) イギリス船に乗っていたが、姑米山 (久米島) 海上で座礁。アメリカ船に 救助され同年 1 月 20 日 (2/12) に 来航。
瑪迪遜	マセソン Matheson	英	英国水師都 司	船長	道光 29 年 2 月 13 日 (1849/3/7) マリナー号にて那覇に来航。
祈連	ジェームス・グリ ン James Glynn	亜	亜国船主	提督	道光 29 年 3 月 17 日 (1849/4/9) 来航。
舎頓	シェダン Robert T. Shedden	英	英国水師提 督会私使者	船長	英国水師提督の会私の使者。道光 29 年閏 4 月 1 日 (1849/5/22) 来航。
巴 (巴麥尊)	パーマストン Henry John Temple, 3rd Viscount Palmerston	英	総辦外務事 宜宰相頭等 巴圖魯世襲 子巴		
来雲	エドモンド・モウ ブ レー・ライオンズ Edmund Moubray Lyons	英	総兵	提督	道光 29 年 11 月 8 日 (1849/12/21) パイロット号 (<i>Pilot</i>) にて来航。パ ーマストンの書簡提出。
挖治	ウェルチ /Welch	亜	船主	船長	道光 30 年 6 月 25 日 (1850/8/2) 来航。
克爾克喇孚 / 克 爾克喇孚	クラクロフト Peter Cracroft	英	水師都司	提督	道光 30 年 8 月 28 日 (1850/10/3) レイナード号 (<i>Reynard</i>) にて来航。
叻嘯叫心	アンデルセン (ア デアクテシ ン) Andresen	耶	船主	船長	シンガポールからカリフォルニア向 け航行中、台風で遭難し、咸豊 1 年 7 月 20 日 (1851/8/16) 来航。船 の修理と食料を求める。 耶媽你国船 (評定所文書では、熱麼 呢国船と表記) については、シンガ ポール船 (英国船) とハンブルグ船 説がある。

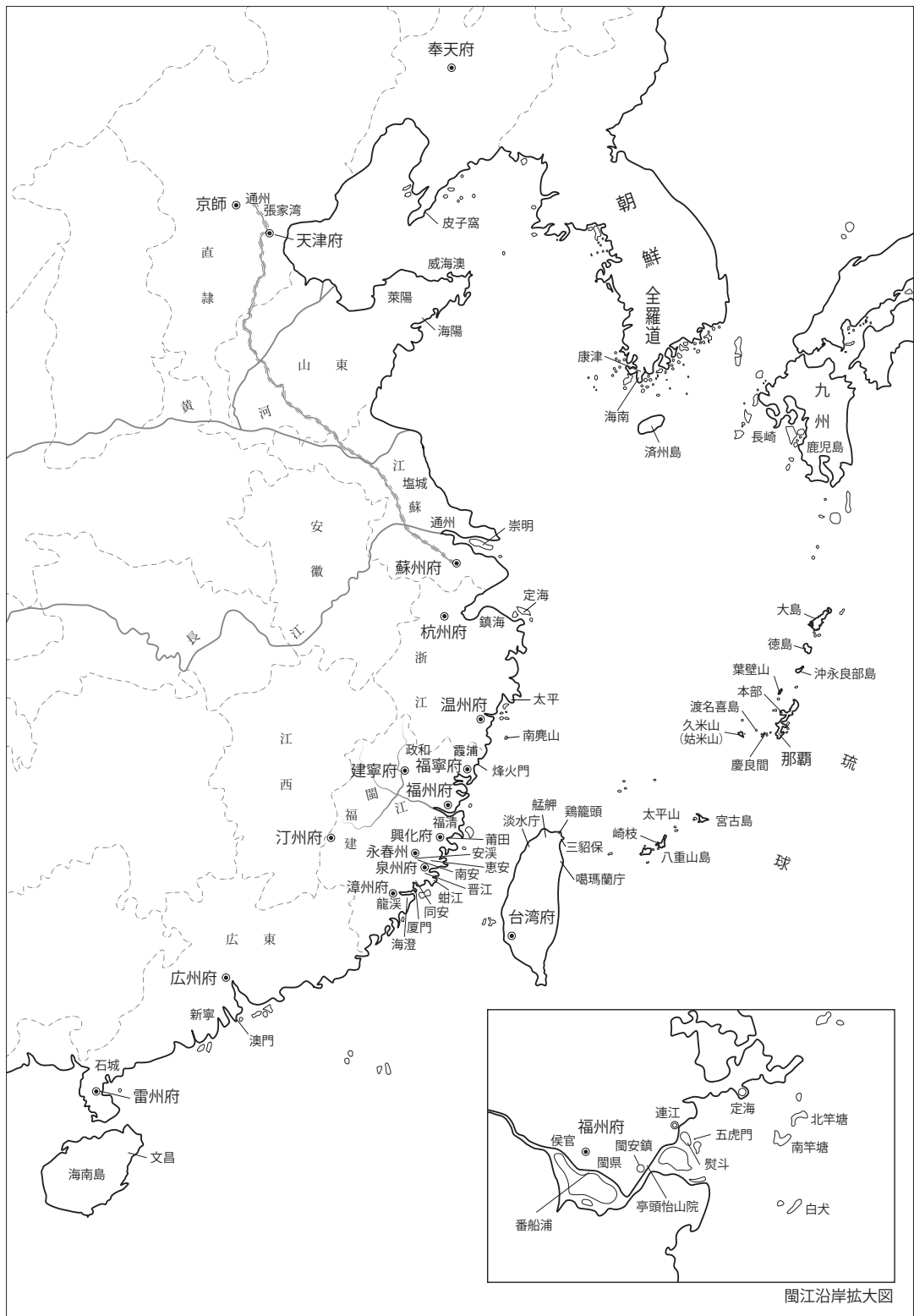
善威理	チャールズ・フレデリック・アレクサンダー・シャドウエル Charles Frederick Alexander Shadwell	英	督領	船長	咸豊1年12月7日(1852/2/6) スフィンクス号(<i>Sphinx</i>)にて来航。パーマストンの書簡提出。
克(克拉住登/克蘭敦)	クラレンドン George Villiers 4th Earl of Clarendon	英	欽命専理外務宰相世襲公爵		
包玲	ジョン・ボーリング John Bowring	英	駐粵英夷領事		叻諭(ボナム)の職を一時代行。
被理	マシュー・カルブレイス・ペリー Matthew Callbraith Perry	亜	欽差大臣兼水師提督		咸豊3年4月19日(1853/5/26)来航。全5回来航する。咸豊4年6月23日(1854/7/17) 琉米修好条約締結。
徳酋/徳公使(徳庇時)	ジョン・フランシス・デイビス Sir John Francis Davis	英		英国公使	叻諭(ボナム)の前任。
冒耳敦/唱叫噉	ジョージ・ヘンリー・モートン George Henry Moreton	英		宣教師	咸豊4年1月17日(1854/2/14) ロビーナ号(<i>Robina</i>)にて来航。約2年滞在。咸豊5年(1855/11) 琉球を去る。
噉噉	バルテルミ・ジラル Barthelemy Girard	仏		宣教師	咸豊5年1月10日(1855/2/26) リヨン号(<i>Lion</i>)にて来航。3年滞在。咸豊8年9月20日(1858/10/26) プレジャン号(<i>Pregent</i>)にて琉球を去る。
噉噉	ルイ・フュレ Louis Furet	仏		宣教師	咸豊5年1月10日(1855/2/26) リヨン号(<i>Lion</i>)にて来航。同年3月22日(5/7) 1度琉球を離れる。咸豊6年9月28日(1856/10/26) 2度目の来琉。同治1年閏8月19日(1862/10/12) 琉球を去る。
噉噉噉	ユージン・エマニュエル・メルメ Eugene Emmanuel Mermet	仏		宣教師	咸豊5年1月10日(1855/2/26) リヨン号(<i>Lion</i>)にて来航。咸豊6年9月28日(1856/10/26) 琉球を去る。

※本表は『歴代宝案 校訂本第15冊』所収の〈補注Ⅲ〉を一部改変したものである。

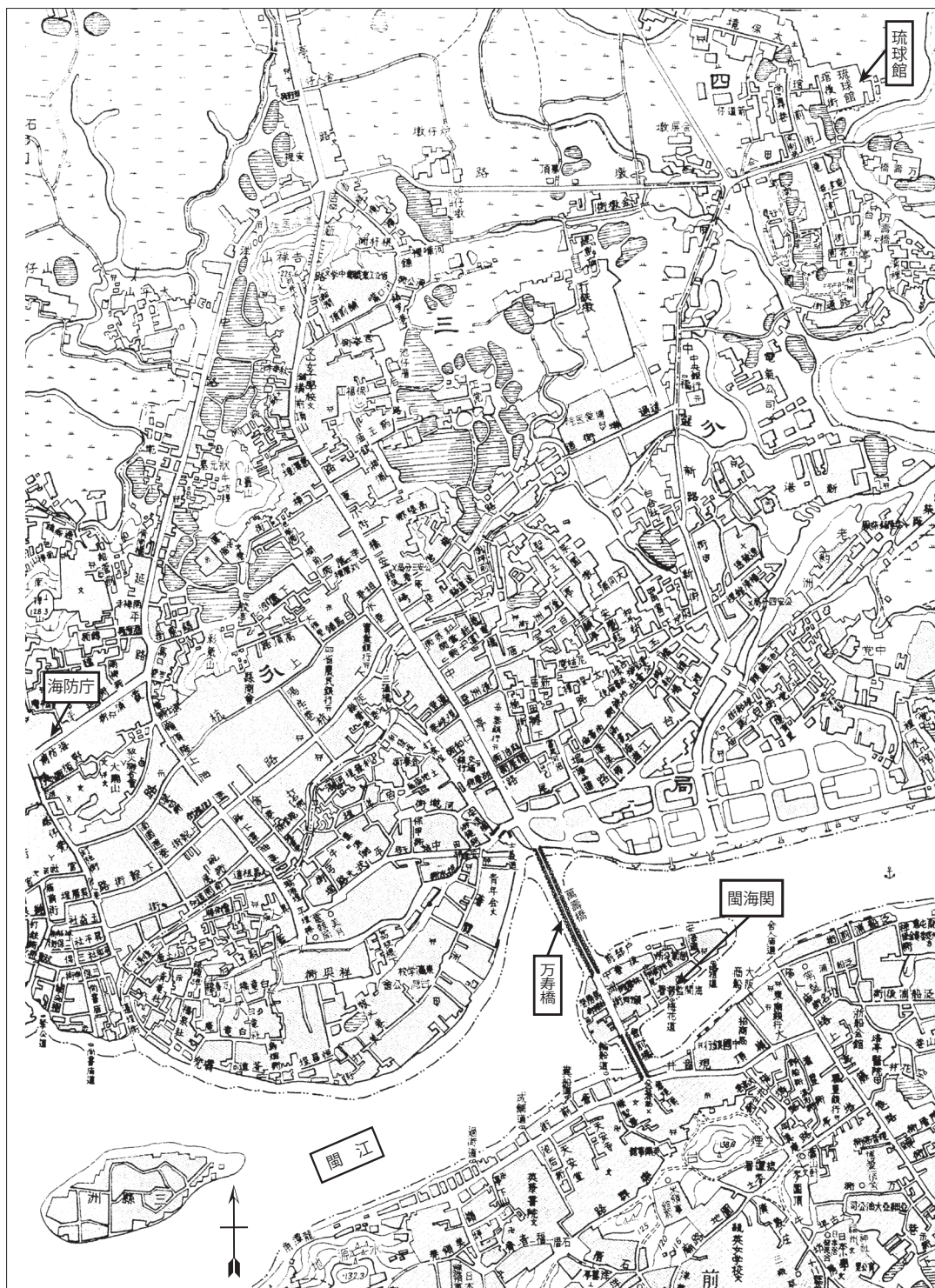
※人名は初出順である。

※国籍(地域): 仏=フランス 英=イギリス 亜=アメリカ 清=中国 耶=ハンブルグ

※備考欄の日付()内は西暦を示す。



訳注本第 15 冊関連地図（譚其驤主編『中国歴史地図集 第八冊 清時期』を参考に作成）



福州城外の琉球館および閩江周辺図

野上英一著『福州攷』付録「福州市街図」（1937年）〔琉中関係研究会編『中国福建省における琉球関係史跡調査報告書』（2009年）を参考に改変〕

琉球国王・中国皇帝（清代）一覽表

琉球国中山王（第二尚氏王統）

代	王名	生没年	在位年代	系譜関係	冊封年・冊封使
1	尚 円	1415—1476	成化6(1470)－成化12(1476)		成化8(1472) 官榮・韓文
2	尚宣威	1430—1477	成化13(1477)	尚円の弟	
3	尚 真	1465—1526	成化13(1477)－嘉靖5(1526)	尚円の長子	成化15(1479) 董旻・張祥
4	尚 清	1497—1555	嘉靖6(1527)－嘉靖34(1555)	尚真の第5子	嘉靖13(1534) 陳侃・高澄
5	尚 元	1528—1572	嘉靖35(1556)－隆慶6(1572)	尚清の第2子	嘉靖41(1562) 郭汝霖・李際春
6	尚 永	1559—1588	万曆元(1573)－万曆16(1588)	尚元の第2子	万曆7(1579) 蕭崇業・謝杰
7	尚 寧	1564—1620	万曆17(1589)－泰昌元(1620)	尚真の玄孫	万曆34(1606) 夏子陽・王士禎
8	尚 豊	1590—1640	天啓元(1621)－崇禎13(1640)	尚元の孫	崇禎6(1633) 杜三策・楊掄
9	尚 賢	1625—1647	崇禎14(1641)－順治4(1647)	尚豊の第3子	
10	尚 質	1629—1668	順治5(1648)－康熙7(1668)	尚豊の第4子	康熙2(1663) 張学礼・王垓
11	尚 貞	1645—1709	康熙8(1669)－康熙48(1709)	尚質の長子	康熙22(1683) 汪楫・林麟焄
12	尚 益	1678—1712	康熙49(1710)－康熙51(1712)	尚貞の孫	
13	尚 敬	1700—1751	康熙52(1713)－乾隆16(1751)	尚益の長子	康熙58(1719) 海宝・徐葆光
14	尚 穆	1739—1794	乾隆17(1752)－乾隆59(1794)	尚敬の長子	乾隆21(1756) 全魁・周煌
15	尚 温	1784—1802	乾隆60(1795)－嘉慶7(1802)	尚穆の孫	嘉慶5(1800) 趙文楷・李鼎元
16	尚 成	1800—1803	嘉慶8(1803)	尚温の長子	
17	尚 灝	1787—1834	嘉慶9(1804)－道光14(1834)	尚穆の孫	嘉慶13(1808) 齊鯤・費錫章
18	尚 育	1813—1847	道光15(1835)－道光27(1847)	尚灝の長子	道光18(1838) 林鴻年・高人鑑
19	尚 泰	1843—1901	道光28(1848)－同治11(1872)	尚育の第2子	同治5(1866) 趙新・于光甲

中国皇帝（清代）

代	廟号 通称	諱 (諡)	生没年	在位年代	系譜関係
1	太祖	努爾哈赤ヌルハチ	1559－1626	天命元(1616)－天命11(1626)	(愛新覺羅氏)
2	太宗	皇太極ホントイジ	1592－1643	天命11(1626)－崇徳8(1643)	ヌルハチの第8子
3	世祖 順治帝	福臨(章皇帝)	1638－1661	崇徳8(1643)－順治18(1661)	ホントイジの第9子
4	聖祖 康熙帝	玄燁(仁皇帝)	1654－1722	順治18(1661)－康熙61(1722)	順治帝の第3子
5	世宗 雍正帝	胤禛(憲皇帝)	1678－1735	康熙61(1722)－雍正13(1735)	康熙帝の第4子
6	高宗 乾隆帝	弘曆(純皇帝)	1711－1799	雍正13(1735)－乾隆60(1795)	雍正帝の第4子
7	仁宗 嘉慶帝	顥琰(睿皇帝)	1760－1820	嘉慶元(1796)－嘉慶25(1820)	乾隆帝の第15子
8	宣宗 道光帝	旻寧(成皇帝)	1782－1850	嘉慶25(1820)－道光30(1850)	嘉慶帝の第2子
9	文宗 咸豊帝	奕訢(顯皇帝)	1831－1861	道光30(1850)－咸豊11(1861)	道光帝の第4子
10	穆宗 同治帝	載淳(毅皇帝)	1856－1875	咸豊11(1861)－同治13(1874)	咸豊帝の長子
11	徳宗 光緒帝	載湉(景皇帝)	1871－1908	同治13(1874)－光緒34(1908)	道光帝の孫
12	宣統帝	溥儀	1906－1967	光緒34(1908)－宣統3(1911)	光緒帝の甥

歴代宝案 訳注本 第十五冊

目次

教育長挨拶

凡例

参考文献

別集「嘒嘆情状」(別台)と「嘒嘆唾三国情状」(別鎌) 記載の(異国) 人名一覧

地図

琉球国王・中国皇帝(清代) 一覧表

目次

第三集

卷一(咸豊九年〜咸豊十年)

三〇一〇一 咸豊帝より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢を嘉尚し、例賞・加賞を頒賜する旨の勅諭

(咸豊九《一八五九》、七、六) ……………

三〇一〇二 咸豊帝三十歳の慶節(生誕日、万寿節)にあたり頒布された詔(咸豊十《一八六〇》、一、一) ……………

- 三〇一〇三 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使翁俊らの北京到着を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、四) …………… 15
- 三〇一〇四 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使翁俊らの北京到着の件を上奏した旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、六) …………… 16
- 三〇一〇五 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢品受領の件を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、十四) …………… 19
- 三〇一〇六 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使への例賞の件を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、二十七) …………… 21
- 三〇一〇七 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使への例賞および筵宴の件を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、二十七) …………… 21
- 三〇一〇八 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使翁俊等の孔子廟参観の件を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、六、二十七) …………… 23
- 三〇一〇九 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使翁俊等への例賞・加賞の経緯を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、七、七) …………… 24
- 三〇一一〇 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の例貢の表文、宝詔欽賜への謝恩の表文、
咸豊四年および咸豊六年の進貢使への加賞品賜給に対する謝恩の表文を具題した件を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、七、八) …………… 26
- 三〇一一一 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊八年の進貢使翁俊等の北京出発を通知する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、七、十) …………… 27
- 三〇一一二 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊十年分の正朔を頒告する旨の咨文
(咸豊九《一八五九》、十二、二十) …………… 28
- 三〇一一三 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊帝の万寿節に当たり頒賜された詔書を送付する旨の咨文

三〇一四 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、琉球の漂風難民嘉手川等を救助し護送する旨の咨文
(咸豊十《一八六〇》、閏三、二十) …………… 30

(咸豊十《一八六〇》、四、二十七) …………… 31

卷二(咸豊九年)

三〇二〇一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊八年の進貢使阮孝銓等を迎接のため接貢船を派遣する旨の咨文

(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 39

三〇二〇二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊九年分の正朔を受領して臣民へ頒布した旨の咨覆

(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 40

三〇二〇三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊八年の進貢使の進京、銅材購入の経緯等に関する咨文を受領した旨の咨覆(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 41

銅材購入の経緯等に関する咨文を受領した旨の咨覆(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 41

三〇二〇四 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、咸豊九年の接貢船派遣に当たり、便宜を図られたき旨、蔡呈祚等に付した執照(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 53

便宜を図られたき旨、蔡呈祚等に付した執照(咸豊九《一八五九》、八、二) …………… 53

卷三(咸豊十年)

三〇三〇一 琉球国中山王世子尚泰より咸豊帝あて、咸豊十年の進貢に当たり皇帝陛下の徳を讃え忠誠を誓う旨の表文
(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 57

(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 57

三〇三〇二 琉球国中山王世子尚泰より咸豊帝あて、咸豊八年の進貢使翁俊・阮孝銓等への頒賞に感謝する旨の表文
(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 61

(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 61

三〇三〇三 琉球国中山王世子尚泰より咸豊帝あて、万寿節に当たり頒布された宝詔の頒賜に感謝する旨の表文
(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 65

(咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 65

三〇三〇四 琉球国中山王世子尚泰より咸豊帝あて、咸豊八年の進貢使翁俊・阮孝銓等への頒賞及び国王慰問に感謝する旨の奏文

三〇三一六 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、琉球漂着の朝鮮人梁明得等を進貢船にて送還する旨の咨文 (咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 82

三〇三一七 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、琉球の難民嘉手川等の船隻の探索を要請する旨の咨文 (咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 83

三〇三一八 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、琉球の漂風難民嘉手川等の救助・送還に関する咨文を受領し感謝する旨の咨覆 (咸豊十《一八六〇》、九、二十八) …………… 84

三〇三一九 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢使向志道らを派遣するに当たり、便宜を図られたき旨、毛発榮等に付した符文 (咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 85

三〇三二〇 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢使向志道らを派遣するに当たり、便宜を図られたき旨、蔡大鼎等に付した執照 (頭号船) (咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 89

三〇三二一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢使向志道らを派遣するに当たり、並びに朝鮮国の難人梁明得等を護送するに当たり、便宜を図られたき旨、蔡徳昌等に付した執照 (二号船) (咸豊十《一八六〇》、八、四) …………… 90

三〇四〇一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢使迎接等のため接貢船を派遣する旨の咨文 (咸豊十《一八六〇》、八、二) …………… 91

三〇四〇二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十一年分の正朔を受領して臣民へ頒布した旨の咨覆 (咸豊十《一八六一》、八、二) …………… 93

三〇四〇三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢頭号船の延着問題・二号船の貿易事務・進貢使の進京問題等に関する咨文を受領した旨の咨覆 (咸豊十《一八六一》、九、二十六) …………… 94

三〇四〇三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢頭号船の延着問題・二号船の貿易事務・進貢使の進京問題等に関する咨文を受領した旨の咨覆 (咸豊十《一八六一》、九、二十六) …………… 94

三〇四〇三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十年の進貢頭号船の延着問題・二号船の貿易事務・進貢使の進京問題等に関する咨文を受領した旨の咨覆 (咸豊十《一八六一》、九、二十六) …………… 94

卷四 (咸豊十一年)

三〇四〇四	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、琉球から福州へ護送した朝鮮人の帰国に関する咨文を受領した旨の咨覆	102
	(咸豊十一《一八六一》、九、二十六)	
三〇四〇五	琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、咸豊十一年の接貢船の派遣に当たり、便宜を図られたき旨、梁得功等に付した執照(咸豊十一《一八六一》、八、二)	103
卷五(咸豊十一年〜同治元年)		
三〇五〇一	咸豊帝臨終の際の退位および皇太子冊立の詔(咸豊十一《一八六一》、七、十七)	105
三〇五〇二	同治帝の即位の詔(咸豊十一《一八六一》、十、九)	112
三〇五〇三	咸豊帝に尊諡を奉る詔(咸豊十一《一八六一》、十二、八)	119
三〇五〇四	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治元年分の正朔を頒告する旨の咨文	135
	(咸豊十一《一八六一》、十二、二十七)	
三〇五〇五	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊帝崩御の詔書を送付する旨の咨文	136
	(咸豊十一《一八六一》、十、二十八)	
三〇五〇六	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治帝即位の詔書を送付する旨の咨文	138
	(同治元《一八六二》、二、十七)	
三〇五〇七	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊帝に尊諡を奉る詔書を送付する旨の咨文	139
	(同治元《一八六二》、三、六)	
三〇五〇八	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治帝の御名(載淳)の忌避方法を伝達する旨の咨文	140
	(同治元《一八六二》、二、十五)	
三〇五〇九	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、護送されてきた福建商人の蔡改等を引き取り、護送の人員を処遇した旨の咨文(同治元《一八六二》、六、十)	141

卷六(咸豐十二年・同治元年)

三〇六〇一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、琉球漂着の福建商人蔡改等五十一人を護送する旨の咨文

(咸豐十二、同治元《一八六二》、四、二) ……

147

三〇六〇二 琉球国中山王世子尚泰より關係当局あて、福建省難民蔡改等を護送するに付き、便宜を図られたき旨、

護送船の都通事梁超群等に付した執照(咸豐十二、同治元《一八六二》、四、二) ……

148

三〇六〇三 琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、咸豐十二年の進貢に当たり皇帝陛下の徳を讃え忠誠を誓う旨の表文

(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

149

三〇六〇四 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、咸豐十二年(同治元)の進貢使向啓元等を派遣する旨の咨文

(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

153

三〇六〇五 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豐十二年(同治元)の進貢使向啓元等を派遣する旨の咨文

(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

154

三〇六〇六 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豐十一年派遣の接貢船および

福建商人送還の護送船の行方を探索して頂きたい旨の咨文(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

154

三〇六〇七 琉球国中山王世子尚泰より關係当局あて、咸豐十二年(同治元)の進貢使向啓元らを派遣するに当たり、

便宜を図られたき旨、魏掌治等に付した符文(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

155

三〇六〇八 琉球国中山王世子尚泰より關係当局あて、咸豐十二年(同治元)の進貢使向啓元らを派遣するに当たり、

便宜を図られたき旨、王承休等に付した執照(頭号船)(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

157

三〇六〇九 琉球国中山王世子尚泰より關係当局あて、咸豐十二年(同治元)の進貢使向啓元らを派遣するに当たり、

便宜を図られたき旨、鄭良佐等に付した執照(二号船)(咸豐十二、同治元《一八六二》、八、二) ……

158

卷七(同治元年〜同治二年)

三〇七〇一 同治帝より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豐十二年の進貢を嘉尚し、例賞等を頒賜する旨の勅諭

三〇七〇二	東太后・西太后に尊号を奉る詔（同治元《一八六二》、四、二十六）……………	（同治元《一八六二》、三、二十五）……………	159
三〇七〇三	孝静成皇后に徽号を加上し太廟に合祀する詔（同治元《一八六二》、九、一二）……………	……………	160
三〇七〇四	礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、頒賜の物件および勅書を送付する旨の咨文	……………	169
三〇七〇五	礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、進貢使臣への頒賜の加賞品を送付する旨の咨文	（同治元《一八六二》、三、十）……………	181
三〇七〇六	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治二年分の正朔を頒告する旨の咨文	（同治元《一八六二》、三、十）……………	183
三〇七〇七	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、東太后・西太后に尊号を奉る詔書を送付する旨の咨文	（同治元《一八六二》、八、二十六）……………	184
三〇七〇八	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、孝静成皇后への徽号加上、太廟合祀の詔書を送付する旨の咨文	（同治元《一八六二》、十二、二十一）……………	186
三〇七〇九	福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊十二年の進貢関連事項の処置等を知する旨の咨文	（同治二《一八六三》、五、一二）……………	187
卷八（同治二年）			
三〇八〇一	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、即位を慶賀する表文（同治二《一八六三》、八、四）……………	……………	197
三〇八〇二	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、咸豊帝の崩御を悼み、靈前へ香典を進める旨の表文	（同治二《一八六三》、八、四）……………	202
三〇八〇三	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、即位の宝詔の頒賜に感謝する旨の表文（同治二《一八六三》、八、四）……………	……………	207
三〇八〇四	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、咸豊帝へ懿号を奉る宝詔を頒賜されたことに対して感謝する旨の表文	……………	

三〇八〇五	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、即位を慶賀する奏文(同治二《一八六三》、八、四)……………	217
三〇八〇六	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、咸豊帝の崩御を悼み馬文英等を派遣して進香する旨の奏文 (同治二《一八六三》、八、四)……………	213
三〇八〇七	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、即位の宝詔の頒賜に感謝する旨の奏文 (同治二《一八六三》、八、四)……………	219
三〇八〇八	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、咸豊帝へ尊諡を奉る宝詔の頒賜に感謝する旨の奏文 (同治二《一八六三》、八、四)……………	220
三〇八〇九	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、同治帝の即位を慶賀する奏文の写しを送付する旨の咨文 (同治二《一八六三》、八、四)……………	221
三〇八一〇	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊帝の崩御を悼み馬文英等を派遣して進香する 奏文の写しを送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、□、□)……………	222
三〇八一	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治帝即位の宝詔の頒賜に感謝する奏文の写しを送付する旨の咨文 (同治二《一八六三》、□、□)……………	223
三〇八一二	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊帝へ尊諡を奉る宝詔の頒賜に感謝する 奏文の写しを送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、□、□)……………	223
三〇八一三	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、進貢船出発の後に咸豊帝の遺詔を拝承したれば、 謝恩の表文を提出せざる旨の照会の咨文(同治二《一八六三》、□、□)……………	224
三〇八一四	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治元年の進貢使向啓元等の迎接のため接貢船を派遣する旨の咨文 (同治二《一八六三》、□、□)……………	225
三〇八一五	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治帝の即位を慶賀する奏文の写しを送付する旨の咨文 (同治二《一八六三》、八、四)……………	226

- 三〇八一六 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、咸豊帝の崩御を悼み馬文英等を派遣して進香する奏文の写しを送付する旨の咨文
(同治二《一八六三》、八、四) …………… 228
- 三〇八一七 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、同治帝即位の宝詔の頒賜に感謝する奏文の写しを送付する旨の咨文
(同治二《一八六三》、八、四) …………… 229
- 三〇八一八 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、咸豊帝へ尊諡を奉る宝詔の頒賜に感謝する奏文の写しを送付する旨の咨文
(同治二《一八六三》、八、四) …………… 229
- 三〇八一九 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、進貢船出発の後に咸豊帝の遺詔を拝承したれば、
謝恩の表文を提出せざる旨の照会の咨文(同治二《一八六三》、八、四) …………… 230
- 三〇八二〇 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治元年分の正朔を受領して臣民へ頒布した旨の咨覆
(同治二《一八六三》、□、□) …………… 231
- 三〇八二一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治帝即位の宝詔を送付する旨の咨文を受領した旨の咨覆
(同治二《一八六三》、八、四) …………… 232
- 三〇八二二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊帝崩御の詔書送付に関する咨文を受領した旨の咨覆
(同治二《一八六三》、八、四) …………… 233
- 三〇八二三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、福建難民の蔡改等を護送せしめたる使者への加賞
護送船の貿易許可に感謝する旨の咨覆(同治二《一八六三》、八、四) …………… 234
- 三〇八二四 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、与那国島漂着の山東省難民十七名の護送のため
鄭秉衡らを派遣する旨の咨文(同治二《一八六三》、七、十三) …………… 238
- 三〇八二五 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、山東省難民杜柏茂等を送還するに付き、
便宜を図られたき旨、護送船の都通事鄭秉衡等に付した執照(同治二《一八六三》、七、十三) …………… 240
- 三〇八二六 琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、皇太后へ尊号を奉る宝詔の頒賜に感謝する旨の表文
(同治二《一八六三》、□、□) …………… 241

三〇八二七	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、孝静成皇后への徽号加上、太廟合祀に関わる詔書の頒賜に感謝する旨の表文 (同治二《一八六三》、□、□) ……………	245
三〇八二八	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、皇太后へ尊号を奉る宝詔の頒賜に感謝する旨の奏文 (同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	250
三〇八二九	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、孝静成皇后への徽号加上、太廟合祀に関わる詔書の頒賜に感謝する旨の奏文 (同治二《一八六三》、□、□) ……………	251
三〇八三〇	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、勅書・欽賞の物件の頒賜に感謝する旨の奏文 (同治二《一八六三》、□、□) ……………	252
三〇八三一	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、皇太后へ尊号を奉る宝詔の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文 (同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	253
三〇八三二	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、孝静成皇后への徽号加上、太廟合祀の詔書の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	254
三〇八三三	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、勅書・欽賞の物件の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文 (同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	254
三〇八三四	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、頒賜の物件および勅書を送付する旨の咨文を受領した旨の咨覆 (同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	255
三〇八三五	琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、進貢使臣への頒賜の加賞品を送付する旨の咨文を受領した旨の咨覆 (同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	257
三〇八三六	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、皇太后へ尊号を奉る宝詔の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	258
三〇八三七	琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、孝静成皇后への徽号加上、太廟合祀の詔書の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………	259

三〇八三八 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、勅書・欽賞の物件の頒賜に対する謝恩の奏文の写しを送付する旨の咨文

(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………

259

三〇八三九 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治二年分の正朔を受領して臣民へ頒布した旨の咨覆

(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………

260

三〇八四〇 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、東太后・西太后に尊号を奉る詔書送付の咨文を受領した旨の咨覆

(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………

261

三〇八四一 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、孝静成皇后への徽号加上、

太廟合祀に関する詔書送付の咨文を受領した旨の咨覆(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………

262

三〇八四二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊十二年の進貢関連事項の

処置等に関する通知の咨文を受領した旨の咨覆(同治二《一八六三》、九、二十三) ……………

264

卷九(同治二年)

三〇九〇一 同治帝より琉球国中山王世子尚泰あて、同治元年の進貢を嘉尚し、例賞を頒賜する旨の勅諭

(同治二《一八六三》、二、十三) ……………

273

三〇九〇二 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、例賞の物件および勅書を送付する旨の咨文(同治二《一八六三》、二、三) ……………

273

三〇九〇三 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、同治元年の進貢使向啓元等に緞疋等を加賞する旨の咨文

(同治二《一八六三》、二、三) ……………

275

三〇九〇四 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治三年分の正朔を頒告する旨の咨文

(同治二《一八六三》、十一、二十八) ……………

276

卷十(同治三年)

三一〇〇一 琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治三年の進貢に当たり皇帝陛下の徳を讃え忠誠を表明する旨の表文

三二一〇〇二	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、冊封を要請する旨の表文（同治三《一八六四》、八、四）……………	277
三二一〇〇三	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、前例に従い、冊封を要請する旨の奏文（同治三《一八六四》、八、四）……………	281
三二一〇〇四	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治元年の進貢使向啓元等への頒賞・加賞に感謝する旨の奏文（同治三《一八六四》、八、四）……………	287
三二一〇〇五	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、山東省難民を護送途中福州沖にて遭難した琉球官員の救助に感謝する旨の奏文（同治三《一八六四》、八、四）……………	289
三二一〇〇六	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治三年の進貢使東国興らを派遣する旨の咨文（同治三《一八六四》、八、四）……………	290
三二一〇〇七	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、前例に従い、冊封を要請する旨の咨文（同治三《一八六四》、八、四）……………	291
三二一〇〇八	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治三年の進貢使東国興等に襲封を要請せしむる旨の咨文（同治三《一八六四》、八、四）……………	292
三二一〇〇九	琉球国の三司官以下の高官より同治帝あて、尚泰の冊封を要請するに当たり、出自を証明し人柄を保証する旨の結状（同治三《一八六四》、八、四）……………	293
三二一〇一〇	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治元年の進貢使向啓元等への頒賞・加賞に感謝する旨の奏文の写しを送付する旨の咨文（同治三《一八六四》、八、四）……………	294
三二一〇一一	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、山東省難民を護送途中福州沖にて遭難した琉球官員の救助に感謝する旨の奏文の写しを送付する旨の咨文（同治三《一八六四》、八、四）……………	301
三二一〇一二	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治元年の進貢使向啓元等に緞疋等を加賞する旨の咨文を受領した旨の咨覆（同治三《一八六四》、八、四）……………	302
三二一〇一三	琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、例賞の物件および勅書を送付する旨の咨文を受領した旨の咨覆（同治三《一八六四》、八、四）……………	303

- 三二一〇一四 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、同治三年の進貢使東国興らを派遣するに当たり、
便宜を図られたき旨、林世爵等に付した符文（同治三《一八六四》、□、□）……………304
- 三二一〇一五 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、前例に従い、冊封を要請する旨の咨文
（同治三《一八六四》、□、□）……………306
- 三二一〇一六 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、同治三年の進貢使東国興等に襲封を要請せしむる旨の咨文
（同治三《一八六四》、□、□）……………307
- 三二一〇一七 琉球国の三司官以下の高官より福建布政使司あて、尚泰の冊封を要請するに当たり、
出自を証明し人柄を保証する旨の結状（同治三《一八六四》、八、四）……………307
- 三二一〇一八 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、同治三年の進貢使東国興らを派遣するに当たり、
便宜を図られたき旨、林世爵等に付した符文（同治三《一八六四》、八、四）……………310
- 三二一〇一九 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、同治三年の進貢使東国興らを派遣するに当たり、
便宜を図られたき旨、魏掌政等に付した執照（頭号船）（同治三《一八六四》、八、四）……………311
- 三二一〇二〇 琉球国中山王世子尚泰より関係当局あて、同治三年の進貢使東国興らを派遣するに当たり、
便宜を図られたき旨、王作梅等に付した執照（二号船）（同治三《一八六四》、八、四）……………312
- 三二一〇二一 琉球国中山王世子尚泰より同治帝あて、同治元年の進貢使向啓元等への頒賞・加賞に感謝する旨の奏文
（同治三《一八六四》、八、四）……………312
- 卷十一（同治三年〜同治四年）
- 三二一一〇一 同治帝より琉球国中山王世子尚泰あて、同治三年の進貢を嘉尚し、例賞を頒賜する旨の勅諭
（同治四《一八六五》、一）……………315
- 三二一一〇二 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、同治二年の慶賀副使毛克述等の福州出発、進京の経緯を伝達する旨の咨文
（同治三《一八六四》、九、十七）……………315

- 三二一〇三 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香副使毛克述等の北京到着を通知する旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、一) …………… 317
- 三二一〇四 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、同治帝の即位を慶賀するための方物を次回の進貢品に充てる旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、十一) …………… 318
- 三二一〇五 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・謝恩等の方物の取り扱いに付き、通知する旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、二十五) …………… 319
- 三二一〇六 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香の使臣の北京到着について上奏した旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、三) …………… 321
- 三二一〇七 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、進貢使臣毛克述等の孔子廟参観の件を通知する旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、二十五) …………… 322
- 三二一〇八 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、御書匾額の頒賜等の件について通知する旨の咨文
(同治四《一八六五》、一、□) …………… 322
- 三二一〇九 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、琉球の進香について上奏した旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二) …………… 322
- 三二一一〇 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香使臣の毛克述等への例賞・筵宴の件を通知する旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、□) …………… 324
- 三二一一一 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香使臣への例賞を頒給した旨の咨文
(同治四《一八六五》、一、□) …………… 325
- 三二一一二 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香使臣への加賞を通知する旨の咨文
(同治四《一八六五》、一、□) …………… 326
- 三二一一三 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀正使の馬文英病故のため恤賞銀の賜給を奏請した旨の咨文
(同治三《一八六四》、十二、□) …………… 328

三二一―一四 礼部より琉球国中山王世子尚泰あて、慶賀・進香使臣の北京出発を通知する旨の咨文

(同治四《一八六五》、一、二十七) ……

329

三二一―一五 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、同治四年分の正朔を頒告する旨の咨文

(同治三《一八六四》、十一、三十) ……

330

卷十二(同治五年〜同治六年)

三二二―〇一 福建布政使司より琉球国中山王尚泰あて、同治六年分の正朔を頒告する旨の咨文

(同治五《一八六六》、十一、二十九) ……

331

三二二―〇二 福建布政使司より琉球国中山王尚泰あて、進貢使・冊封使・謝恩使・朝鮮難民等に関する件を通知する旨の咨文

(同治六《一八六七》、五、五) ……

331

卷十三(同治六年)

三二二―〇一 琉球国中山王尚泰より福建布政使司あて、同治五年の進貢使臣迎接等のため接貢船を派遣する旨の咨文

(同治六《一八六七》、〇、〇) ……

347

三二二―〇二 琉球国中山王尚泰より福建布政使司あて、冊封謝恩の使臣迎接のため接貢船を派遣する旨の咨文

(同治六《一八六七》、〇、〇) ……

347

三二二―〇三 琉球国中山王尚泰より福建布政使司あて、同治六年分の正朔を受領して臣民へ頒布した旨の咨文

(同治六《一八六七》、〇、〇) ……

348

三二二―〇四 琉球国中山王尚泰より福建布政使司あて、福州琉球館の修築竣工に感謝する旨の咨文

(同治六《一八六七》、〇、〇) ……

349

三二二―〇五 琉球国中山王尚泰より福建布政使司あて、進貢使・冊封使・謝恩使・朝鮮難民等に関する咨文を受領した旨の咨文

(同治六《一八六七》、〇、〇) ……

350

三二一三〇六 琉球国中山王尚泰より關係当局あて、同治六年の接貢船派遣に当たり、便宜を図られたき旨、陳良弼等に付した執照

(同治六《一八六七》、□、□) ……………

359

三二一三〇七 琉球国中山王尚泰より關係当局あて、同治六年の接貢船および謝恩使者接回船の派遣に当たり、

便宜を図られたき旨、蔡大鼎等に付した執照(同治六《一八六七》、□、□) ……………

360

別集

啖噉情状(別台)(道光二十四年〜道光二十七年)

別台〇一 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、仏国の戦船来琉し和好・貿易・布教を求むるも拒絶したるに、

仏人等二人を残置せしめたる旨の咨文(道光二十四《一八四四》、八、四) ……………

363

別台〇二 署福建布政使司より琉球国中山王尚育あて、仏船来琉の報告を受領し、

広東当局へ仏人を撤回させる交渉を要請した旨の咨覆(道光二十五《一八四五》、四、二十五) ……………

366

別台〇三 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、在琉仏人の撤回につき広東にて両広総督より

仏国公使と交渉中との咨文を受領した旨の咨覆(道光二十五《一八四五》、八、四) ……………

372

別台〇四 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、英国の船が宮古・八重山に到り海陸を測量したこと、

在福州英国領事の李太郭が琉球へ公文を提出したことを通知する旨の咨文

(道光二十五《一八四五》、八、四) ……………

374

別台〇五 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、英国船は伯徳令(ベッテルハイム)を琉球に残置し、仏国の総兵は

条約の締結を迫り、仏人伯多禄(ルーテュルデュ)・亜泉徳(アドネ)の二名を逗留せしめられたれば、

退去方の外交交渉を求むる旨の咨文(道光二十六《一八四六》、八、十四) ……………

376

別台〇六 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、英国船三隻来琉するも伯徳令を

引き取らないまま退去したことを通知する旨の咨文(道光二十六《一八四六》、九、二) ……………

382

別台〇七 福建布政使司の職務を兼務する塩法道より琉球国中山王尚育あて、広東駐在の仏国領事は中仏条約締結により

在琉仏人の撤回を約束したことを通知する旨の咨文（道光二十五《一八四五》、九、四）……………

383

別台〇八 福建布政使司の職務を兼務する塩法道より琉球国中山王尚育あて、広東駐在仏国領事の在琉仏人撤回の約束を、

閩浙総督より上奏した件に付き通知する旨の咨文（道光二十五《一八四五》、十一、五）……………

385

別台〇九 福建布政使司より琉球国中山王尚育あて、道光二十四年以來の英仏船（人）等の動向に関する密咨を受領し、

関係部署で対応した経緯について通知する旨の咨覆（道光二十七《一八四七》、一、二十五）……………

386

別台一〇 礼部より琉球国中山王尚育あて、在琉英仏人の退去の件に付き両広総督の耆英に命じて広東駐在の

英仏公使と交渉させよとの上諭を伝達する旨の咨文（道光二十六《一八四六》、十二、二十五）……………

390

別台一一 福建布政使司より琉球国中山王尚育あて、対英仏交渉により在琉仏人は一年以内に退去の意向、在琉英人も

これに倣い退去の見込みとの情報を伝達する旨の咨文（道光二十七《一八四七》、三、二十八）……………

391

別台一二 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、広東駐在の仏国領事は在琉仏人の撤回を約束したとの

布政司よりの咨文を受領した旨の咨覆（道光二十七《一八四七》、八、四）……………

393

別台一三 琉球国中山王尚育より福建布政使司あて、道光二十四年以來の英仏船（人）等の動向に関する密咨を受領し

対応措置を講じた経緯、および在琉仏人は一年以内に退去の意向、英人もこれに倣い

退去見込みとの情報伝達の咨文を受領した旨の咨覆（道光二十七《一八四七》、八、四）……………

395

啖啖三國情状（別鎌）（道光二十六年〜咸豐五年）

別鎌〇一 礼部より琉球国中山王尚育あて、在琉英仏人の退去の件に付き両広総督の耆英に命じて広東駐在の

英仏公使と交渉させよとの上諭を伝達する旨の咨文（道光二十六《一八四六》、十二、二十五）……………

401

別鎌〇二 礼部より琉球国中山王尚育あて、在琉英仏人の退去の件に付き両広総督の耆英に命じて広東駐在の

英仏公使と交渉させよとの上諭を伝達する旨の咨文（道光二十六《一八四六》、十二、二十六）……………

401

別鎌〇三 福建布政使司より琉球国中山王尚育あて、琉球滞在英仏人の動向報告と退去要請を受け、福建・広東・北京当局の

401

別鎌〇四 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、道光二十六年の尚育の密咨および進貢使の稟帖（請願書）に対する上諭を拝受、琉球逗留英仏人退去方の外交交渉に感謝し、仏人亜臬徳の死去と伯多禄の

別鎌〇五 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、先父（尚育）の密咨（英仏人退去要請）を受けて対応措置を講ぜし旨の貴司の咨覆を受領、併びに逗留仏人の一人は死去、一人は大総兵の艦船に乗船して

別鎌〇六 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、道光二十八年の進貢使臣より提出された貴王世子の咨文（仏人伯多禄の退去、英人伯徳令の残留等の報告）を受けて督撫兩院より欽差大臣へ移咨查辦せしめ、欽差大臣の

別鎌〇七 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、道光二十八年の咨文（伯徳令の退去要請の件）を受けて交わされた福建当局と広東の欽差大臣・英国領事との間の交渉経緯報告の咨覆を受領し、併びに道光二十九年の

別鎌〇八 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、道光二十九年の咨文（伯徳令の退去要請の件）を受けて、琉球における英米船（人）の動向について報告する旨の咨覆（道光二十九《一八四九》、八、四）

別鎌〇九 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、道光二十九年の接貢船の将来した咨文（伯徳令退去要請の件）に対する清国当局の対応措置についての報告を受領し、併びにその後の英米船隻の

別鎌一〇 礼部より琉球国王世子尚泰あて、進貢使節より提出された稟帖（請願書）を受領し上奏したところ、伯徳令退去の件についてはすでに対処済みとの上諭を受けたので伝達する旨の咨文

度重なる来琉、英国宰相の国書提出、伯徳令への優遇措置の要求等々について報告する旨の咨覆

（道光三十《一八五〇》、九、十五）……………

413

412

409

407

406

404

402

(咸豊元《一八五二》、一、二十六) ……………

別鎌 一一 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、道光三十年の進貢使節から提出された王世子の咨文(英米船隻の度重なる来琉、英国宰相の国書提出、伯徳令への優遇措置の要求等々についての報告)を受領し、

王世子の要請通りに対応措置を講じた旨の咨覆(咸豊元《一八五二》、五、八) ……………

別鎌 一二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、道光三十年の密咨(伯徳令退去方の要請)に対する再度の上諭を拝受するも、伯徳令は帰国の意思なく逗留し、近日大英欽差総督の来琉を予告、加えてまた

耶媽你国船来琉し修船せしも伯徳令を乗せ帰らざれば、さらなる外交交渉を要請する旨の咨文

(咸豊元《一八五二》、八、三) ……………

別鎌 一三 署福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊元年の貴王世子の咨文(伯徳令の逗留、大英総督の来琉予告、

耶媽你国船の寄港の件)を受領し、すでに前任布政使より督撫へ転詳して対応措置を講ぜしめた旨の咨覆

(咸豊一《一八五二》、四、十一) ……………

別鎌 一四 琉球国中山王世子尚泰より礼部あて、咸豊元年進貢の進貢使臣の稟帖(英人伯徳令の退去請願書)に対する上諭を伝達する旨の咨文を拝受し感謝するとともに、伯徳令の退去は未だ実現せざれば、馬克承等の

請諭使臣を派遣し福建当局になお一層の尽力を要請、

再度の上奏に至らしむる事情についての咨覆(咸豊二《一八五二》、八、三) ……………

別鎌 一五 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊元年提出の咨文(伯徳令退去方の要請)に対して、欽差大臣の交渉報告を待つべき旨の咨覆を拝受するも、伯徳令はなお逗留し続ける故、新たに馬克承らの

請諭使臣を派遣し、なお一層の尽力を要請する旨の咨覆(咸豊二《一八五二》、八、三) ……………

別鎌 一六 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、伯徳令をめぐる内外情勢(伯徳令の威嚇的挙動、善威理の巴麦尊書簡提出と首里城への恣意的入城、伯徳令の布教活動を認めよとの英国外務大臣の国書到来、琉球臣民の不安と

救援要請使節派遣の切なる願望)を受けとめ、再度請諭使を派遣し

伯徳令退去方について尽力を請う旨の咨文(咸豊二《一八五二》、八、三) ……………

別鎌一七 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊二年の王世子の咨文（伯徳令をめぐる内外情勢報告、

請諭使馬克承等の派遣通知）を拝受、督撫へ転詳して対応処置を講ぜしめ、咸豊二年の季芝昌らの

上奏に対する寄信上諭を送付する旨の咨覆（咸豊三《一八五三》、五、一）……………

別鎌一八 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊三年五月の貴司の咨覆により、総督季芝昌らの上奏の抄摺

（伯徳令退去をめぐる欽差大臣と英国領事との交渉要請）および咸豊二年の寄信上諭

（欽差大臣への交渉指示）を拝受したるも、現にアメリカ船より華人二名上陸して伯徳令と同居し、益々騷擾甚だしければ、欽差大臣に更なる尽力を要請されたき旨の咨覆

（咸豊三《一八五三》、八、十五）……………

別鎌一九 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、被理（ペリー）艦隊の琉球来航の経緯と米英人の動向

（貯炭所の開設、首里城への入城、伯徳令との往来等）について報告し、逗留米英人の

退去方に付き救援を乞う旨の咨文（咸豊三《一八五三》、九、十九）……………

別鎌二〇 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊二年の咨文（伯徳令撤回方の要請、請諭使の派遣）を受領し、

関係当局へ取り次ぎ善処せしめ、咸豊三年七月の前任総督の憲牌とともに欽差大臣の咨覆（英国側との

交渉報告、交渉経緯の覆奏の抄摺）を拝受したれば、転送する旨の咨覆

（咸豊四《一八五四》、五、十一）……………

別鎌二一 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊三年八月の咨（アメリカ船より華人二名上陸、伯徳令と同居の報告）

および同年九月の咨（ペリー艦隊の琉球来航と英米人の動向に関する報告）を受領し、

関係当局へ取り次いで対応措置を要請、閩浙総督の指示により咸豊四年三月上奏文の抄摺

（広東における欽差大臣と英米側との交渉の件）を送付する旨の咨覆

（咸豊四《一八五四》、五、十一）……………

別鎌二二 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、伯徳令撤回要請をめぐる咸豊四年五月の貴司の咨文により、

前任総督王懿徳の憲牌とともに欽差大臣葉名琛の上奏文の抄摺

(英国側との交渉経緯等)を拝受した旨の咨覆(咸豊四《一八五四》、八、三)……………

別録二三 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊四年五月の貴司の咨および広東における欽差大臣と英米側との交渉を

要請する閩浙総督王懿徳の上奏の抄摺を受領し、咸豊三年十月以降の琉球における米英人の

動向(ペリーの要求項目提示、伯徳令一家の退去、冒耳敦一家の逗留)を報告する旨の咨覆

(咸豊四《一八五四》、八、三)……………

別録二四 福建布政使司より琉球国中山王世子尚泰あて、咸豊三年十月以降の米英側の動向(ペリー提督の要求事項提示、

伯徳令一家の退去、冒耳敦一家の逗留)についての咨文を受領し、咸豊四年十一月の督撫の上奏

(冒耳敦一家の退去方に付き広東における交渉継続の要請)、および上奏に対する上諭の写しを

転送する旨の咨文(咸豊五《一八五五》、五、十)……………

別録二五 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、咸豊五年正月十日仏朗西船来航、仏人噉噉(ジラルル)等三人逗留、

英人冒耳敦(モートン)もなお逗留中故、退去方に付き、更なる尽力を乞う旨の咨文

(咸豊五《一八五五》、三、二十四)……………

別録二六 琉球国中山王世子尚泰より福建布政使司あて、貴司の咨覆により督撫の咸豊五年二月の上奏(英人冒耳敦の

退去要請の件)に対する上諭を拝受したるも、冒耳敦は未だ退去せず、加えて仏人噉噉等も逗留し

滋擾したれば、英仏人撤回方に付き更なる尽力を乞う旨の咨覆

(咸豊五《一八五五》、八、三)……………

咨集 文組方(乾隆三十八年〜四十九年)

咨〇一 浙江寧波府象山県より琉球国王あて、象山県漂着の琉球人須様智を福建へ護送し帰国させる旨の咨文

(乾隆三十八《一七七三》、十一、十七)……………

咨〇二 署浙江台州府寧海県より琉球国王あて、寧海県漂着の琉球人伊波等を福建へ護送し帰国させる旨の咨文

(乾隆四十七《一七八二》、三、十五)……………

咨〇三 浙江寧波府鎮海県より琉球国王あて、鎮海県漂着の琉球人大城等を福建へ護送し帰国させる旨の咨文 (乾隆四十八《一七八三》、十二) …………… 467

咨〇四 浙江寧波府定海県より琉球国王あて、定海県漂着の琉球人成嘉手刈等を福建へ護送し帰国させる旨の咨文 (乾隆四十八《一七八三》、一、十八) …………… 469

咨〇五 浙江寧波府定海県より琉球国王あて、定海県漂着の琉球人具志堅等を福建へ護送し帰国させる旨の咨文 (乾隆四十九《一七八四》、一、十二) …………… 469

康熙五十八年亥 冠船の時唐人持ち来たり候貨物録 …………… 471

二集 歴代宝案目録 乾 康熙三十六年より起こし乾隆四十年に至る …………… 503

二集 歴代宝案目録 坤 乾隆四十年より起こし嘉慶二十五年に至る …………… 543

付録

○語注索引 ・漢字検索のための総画数一覧 …………… 581

①語句索引 …………… 590

②人名・地名索引 …………… 622